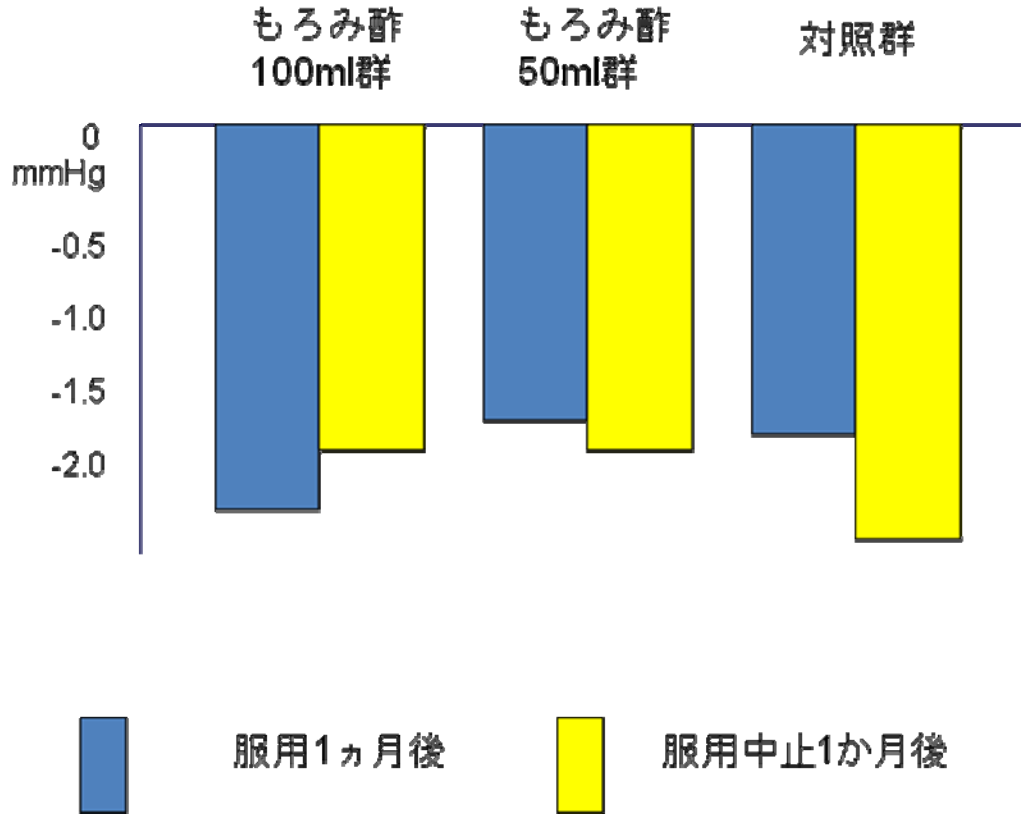
実験内容

症例選択

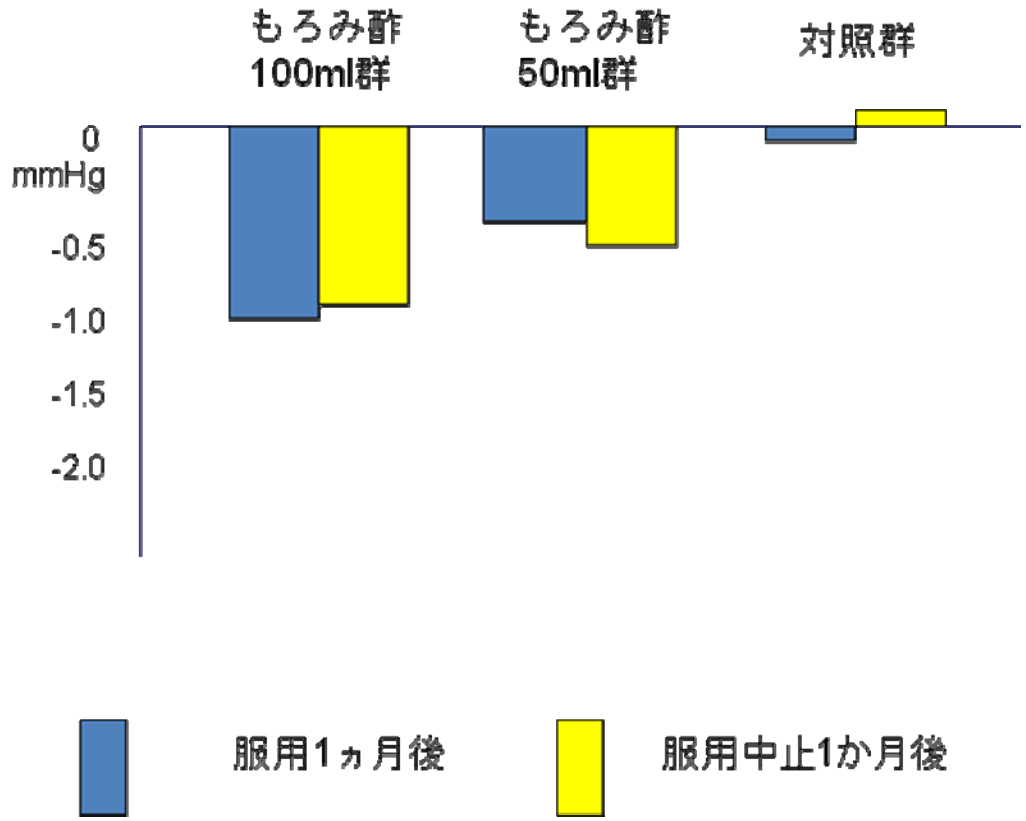
介入症例と非介入症例の選別、および介入条件は、心療内科と同じ。

１回目調査
　介入による眼機能への影響は、視力、眼圧で評価した。どちらに影響があるか不明であったので、双方を評価した。介入前 2007 年 7 月 11 日、1 ヵ月の介入後同年 8 月 8 日、介入を中止した後同年 9 月 5 日に施行した。

その結果、視力は有意な影響を認めなかったが、眼圧を低下させる傾向が見られた。以上より、本介入は眼圧下降効果があると考えられるので、再度同じ実験を眼圧のみについて、2007 年 10 月 16 日、同年 11 月 13 日、同年 12 月 11 日に行った。症例の割り付けなどは、心療内科のものを採用した。



以上より、もろみ酢を服用するしないに関わらず、眼圧は低下した。
そこで同じ実験を行った。



この調査では前回と異なり、もろみ酢を多く飲んだ群が眼圧がより大きく下降した。ただし、服用を中止して１か月後でも同じように眼圧が低下したままであった。

考案

1 回目の実験では、もろみ酢の内服の有無による眼圧下降の差がなく、もろみ酢の眼圧下降効果は否定的であった。しかし、2 回目の実験では、もろみ酢を多く飲んだ方が、明らかに眼圧が下降しており、眼圧下降へのいくらかの効果が見られた。1 回目よりも 2 回目の方が、検査員は熟練しており、2 回目のデータの方が信頼できる。

問題は、服用中止後１か月でも同じような傾向がみられたことである。ひとつの解釈としては、この効果がもろみ酢に関係なく起こったというものである。もう一つは、眼圧下降はもろみ酢内服により起こったが、その作用は服用を中止しても 1 カ月以上続くというものである。いずれが正しいかは今回の実験では判定し難い。2 回目の実験結果が再現されるのであれば、研究を継続する意味がある。